

## 平成 28 年度 第 7 回三重県行財政改革推進本部本部員会議 概要

- 1 開催日時：平成 28 年 9 月 9 日（金）9:40～10:25
- 2 開催場所：プレゼンテーションルーム
- 3 議事概要：以下のとおり

### 議題 1 「歳入確保ワーキング・グループ」・「歳出改革ワーキング・グループ」における検討結果報告（最終とりまとめ）について

#### 【山本財政課課長補佐】（資料 1 に基づき説明）

4 月から「歳入確保ワーキング・グループ」・「歳出改革ワーキング・グループ」（以下、「WG」という。）において議論してきた結果について報告いたしたい。

今後、本県財政がめざすべき姿としては、「将来世代に負担を先送りすることのない持続可能な行財政運営を維持していくこと」であると考えている。

具体的な目標としては、臨時収入に依存しない財政運営への転換を図ることが重要であり、この目標を管理するため、予算編成の際に、経常的支出の規模が適正かどうかを判断するための新たな指標を設定することが望ましいと考える。

#### 【田中環境生活部長】

「本県より職員数が少ない団体もある」とあるが、実際、三重県の職員数が多いのか少ないのかが分かるように変更できないか。

#### 【松下財政課班長】

最終とりまとめとしてWGで議論を終えたものであるもので、変更が可能かどうか持ち帰って検討したい。

#### 【西城戦略企画部長】

「本県の平均給与額が全国より高くなっている」とあるが、何に基づいてこのように言えるのか。

#### 【松下財政課班長】

データを記載していないが、総務省の給与実態調査に基づいてのものである。

### 議題 2 三重県財政の健全化に向けた集中取組について

#### 【松下財政課班長】（資料 2 に基づき説明）

三重県財政の健全化に向けた集中取組（素案）（以下、「集中取組」という。）は、WGの検討結果報告や職員の一口政策提案などを受けて策定するものである。9月15日の全員協議会で県議会に説明いたしたい。

位置付けとしては、第二次三重県行財政改革取組の「機動的な財政運営の確保」の深堀として別建ての取組を構築したものである。

具体的な目標としては、経常的支出の規模を段階的に引き下げていくこととし、このために、新たな指標として「経常収支適正度（仮称）」を設けて予算編

成において経常的支出の総額を管理することとしたい。また、当分の間、投資的経費等の臨時的支出も抑制していくこととしている。

最終的には、持続可能な行財政運営の維持を図っていくこととし、具体的には、臨時収入に依存しない財政運営への転換、機動的かつ弾力的な財政運営の確立をめざしていきたい。

**【西城戦略企画部長】**

「経常的支出の規模を段階的に引き下げていく」「当面は臨時的支出（投資的経費等）も抑制していく」という記載があるが、この微妙な表現の違いは、臨時的支出は減らせないので増え方を抑えていくということが良いか。

**【松下財政課班長】**

経常的支出は硬直性が強い義務的な経費が多いため、3年間の計画の中で急に下げていくことは難しく、段階的に引き下げていく。一方で、臨時的支出は比較的即効性があるので、当面は、臨時的支出も抑制していく。

また、投資的経費は県債の発行に直結し、県債を発行すれば、その分公債費が増えることで経常的支出が増えることになる。中期的にみれば、投資的経費を抑えることで経常的支出にも影響が出てくると考えている。

**【西城戦略企画部長】**

「経常収支適正度（仮称）」について、決算における経常収支比率は、普通会計ベースで算出しているが、予算段階で同じような算出は可能なのか。

**【松下財政課班長】**

普通会計という形では決算しないと判明しないが、一般会計ベースで算出することを考えている。

**【西城戦略企画部長】**

経常的支出の考え方について説明いただきたい。

**【松下財政課班長】**

公債費、社会保障関係経費、人件費、補助金、庁舎管理経費などが経常的支出と考えている。

**【西城戦略企画部長】**

経常的支出の中に「政策的経費（非公共）」との記載があり、公共と非公共は峻別されていると読めるが、それで良いか。

**【松下財政課班長】**

公共事業は投資的経費である。一方で、政策的経費の中の非公共の事業は、事務的な経費あるいは補助金などがあるので、そういったものは経常的なものであると考えている。

**【西城戦略企画部長】**

投資的経費の中にも、確実に支出が見込まれるものがあると思うが、それにつ

いての考え方はどうか。

**【松下財政課班長】**

投資的経費を抑制すると、将来の公債費が抑えられる。また、投資をするとランニングコストが増え、維持管理費に影響があるので、そのようなことにも目配せしながらやっていく必要があると考えている。

**【西城戦略企画部長】**

3年間取り組んだ後、「その後3年以内をめどに」とあるが、取組期間が3年間ということであれば、その先のことについて、3年以内と期間を限ってまで目標を掲げる必要はないように思う。

**【松下財政課班長】**

計画期間が平成31年度までであるので、この計画において責任を持てる部分は3年間かと思うが、その時点での経常収支比率や実質公債費比率の数値がベターな数値ではない。その後の数年以内に全国平均以下にしていくことが県財政に求められている。

**【水島観光局長】**

公債費のピークが平成34年度であることなどを踏まえると、なぜ計画期間を3年間としているのか。

**【松下財政課班長】**

「みえ県民カビジョン・第二次行動計画」及び「三重県第二次行財政改革取組」の取組期間が平成31年度までであり、集中取組は、行革取組の深堀、横展開との位置づけであるため平成31年度までとしている。

**【水島観光局長】**

WGでの検討と集中取組は別物であると思うが、集中取組が出来上がった経緯はどうか。

**【嶋田総務部長】**

WGからの報告を踏まえて、県として進めるものが集中取組である。

**【水島観光局長】**

これから集中取組に基づいて取組をしていくのであれば、WGの報告書が集中取組の詳細版ではないということが良いか。

**【嶋田総務部長】**

そうである。ただし、今回の集中取組は、あくまで素案であり検討を続けていくことから、今後、肉付けはあり得る。

議題3 平成28年度「第二次三重県行財政改革取組」上半期の進捗状況について

**【中野行財政改革推進課長】**（資料3に基づき説明）

11 の具体的取組について年次計画に対する上半期の実績を8月末現在でとり

まとめた。すべての具体的取組について、ほぼ年次計画どおり進捗している。今後も適切な進行管理に努め、着実な推進を図っていく。

(質疑等なし)

**【知事】**

若手のWGメンバーの皆さん、ご苦労さんでした。

短期間ではあるが集中して議論ができ、奥歯にものがはさまっていて言えなかったようなことも出してもらったことができたのではないかな。

WGでの議論を踏まえ、どういうことに取り組んでいくのかについてしっかり議論してほしい。また、他県の成果のあがっている取組等について情報収集するなど、しっかり知恵を出して取り組んでほしい。